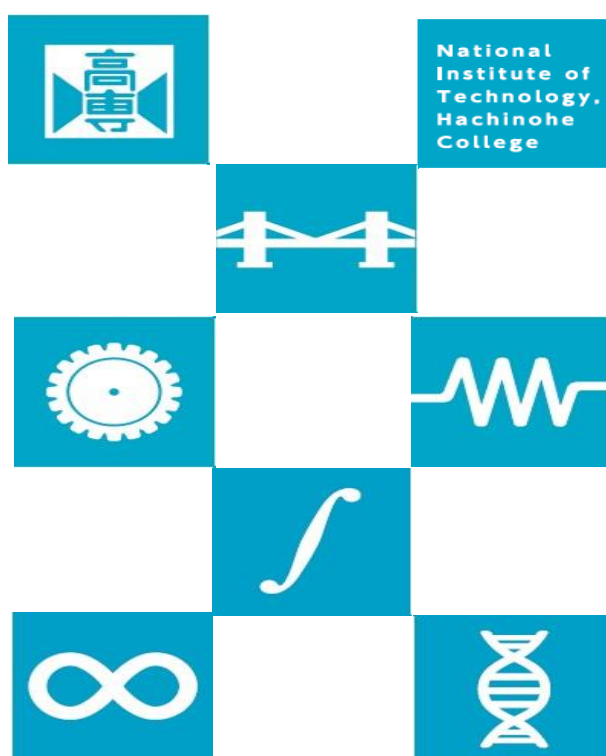


相談室報

(第 35 号)



平成 3 1 年 3 月

八戸工業高等専門学校

目次

1. 講演会報告	1
1-1 ストップ！ハラスメント！ーより良いキャンパス環境を目指してー	
仙台高専学生相談室 カウンセラー 濱中ミオ	
1-2 目指そう！グッドコミュニケーションー相互尊重のススメー	
仙台高専学生相談室 カウンセラー 濱中ミオ	
2. 相談室活動報告	4
2-1 構成的グループエンカウンターについて	室長 矢口 淳一
2-2 「話してみよう！1分間」について	室長 矢口 淳一
3. 研修会等参加報告	8
【FD 報告資料】	
3-1 「障害学生支援の事例紹介」（発達障害学生支援の例）	副室長 山本 歩
3-2 第 55 回 全国学生相談研修会参加報告（本校と他大学の相談室運営の比較）	
相談員 井関 祐也	
4. 相談室の記録	12
4-1 年間活動記録	
4-2 相談室購入書籍・雑誌	

編集後記

1. 講演会報告

1-1 ストップ！ハラスメント！

ーより良いキャンパス環境を目指してー

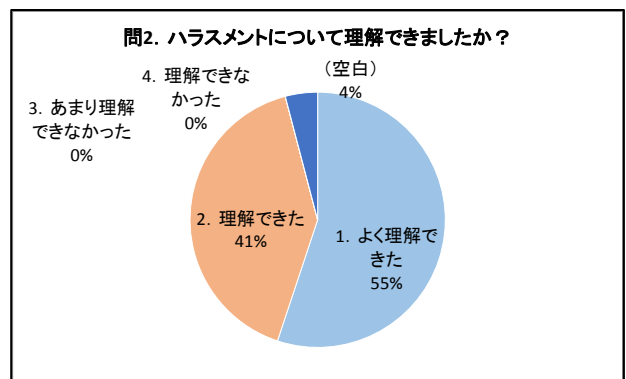
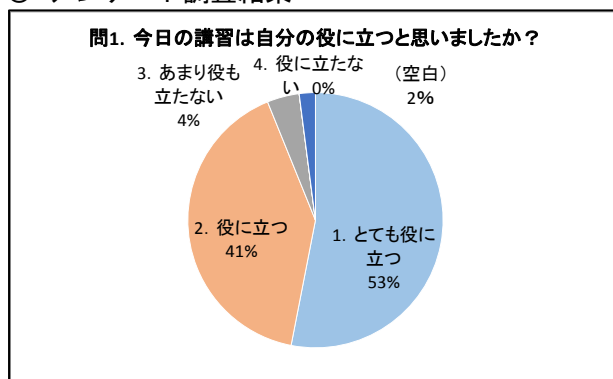
仙台高専 学生相談室

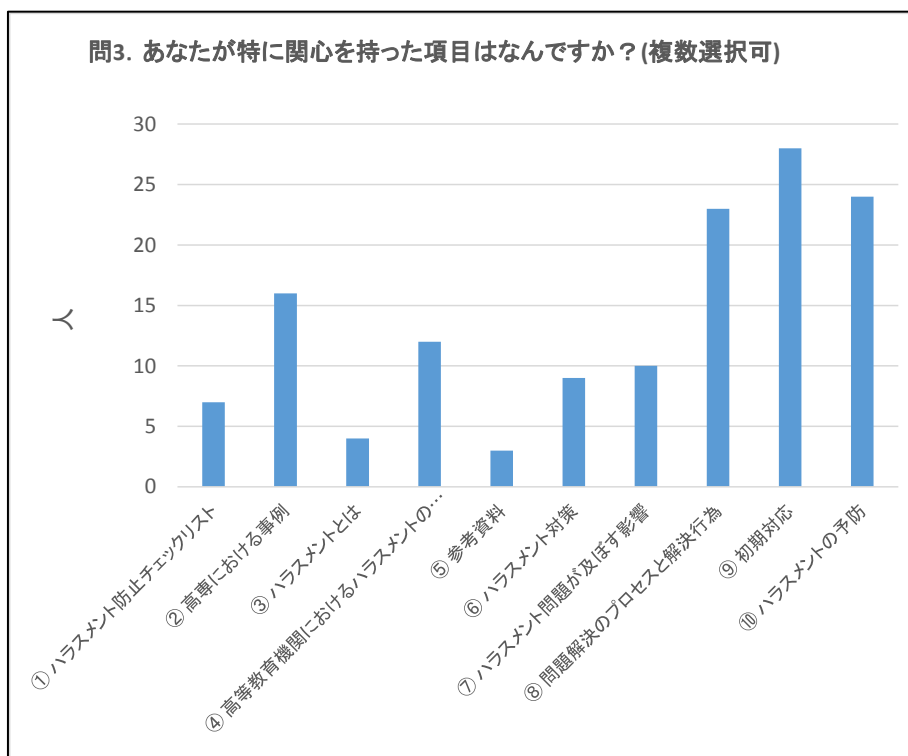
カウンセラー 濱 中 ミ オ

17.09.06八戸工業高等専門学校ハラスメント防止講演会 ストップ！ハラスメント！ ーより良いキャンパス環境を目指してー 仙台高等専門学校学生相談室カウンセラー 濱中ミオ 1	今日の流れ ・なぜ今、ハラスメント？ (本日のお話の目的) ・ハラスメントとは ・高等教育機関における現状 ・ハラスメント問題の理解と対応 ・ハラスメントを防止するために 2
なぜ今、ハラスメント？ 法令遵守(コンプライアンス) 情報公開(インフォームドコンセント) 行政も企業も組織的に取り組んでいる 時代的・国際的・社会的要請 3	八戸高専におけるハラスメントの防止等に関する規則について (教職員、学生等の心得) 第3条 本校に所属する教職員、学生等は、ハラスメントのない、健全で快適な校内環境を醸成し維持することに努めなければならない。 4

その後ハラスメントの事例検討を行い、発生した時の対応や予防について講演していただいた。

◎ アンケート調査結果





1-2 目指そう！グッドコミュニケーション ー相互尊重のススメー

仙台高専 学生相談室

カウンセラー 濱 中 ミ オ

平成29年度第1学年対象講演会11/12/6

**目指そう！グッドコミュニケーション
ー相互尊重のススメー**




仙台高専学生相談室カウンセラー
濱中ミオ



今日のテーマ

**自信を持って楽しくコミュニケーション
する力を高めよう。**

なぜ今「コミュニケーション」？

世界の人口は約 **74億** 人

多様な民族 多様な文化 多様な宗教 多様な価値観

多文化共生社会

多様な人々とやりとりする力は
世の中を生きていく上での基本的なスキル



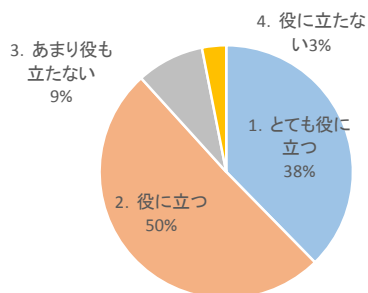
どうやって身に付けるものなのか？



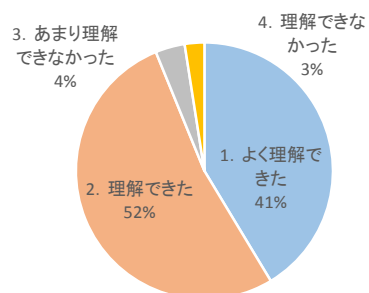
講演会では、話し方と聴き方の技法について実際に体験しながら練習した。

◎ アンケート調査結果

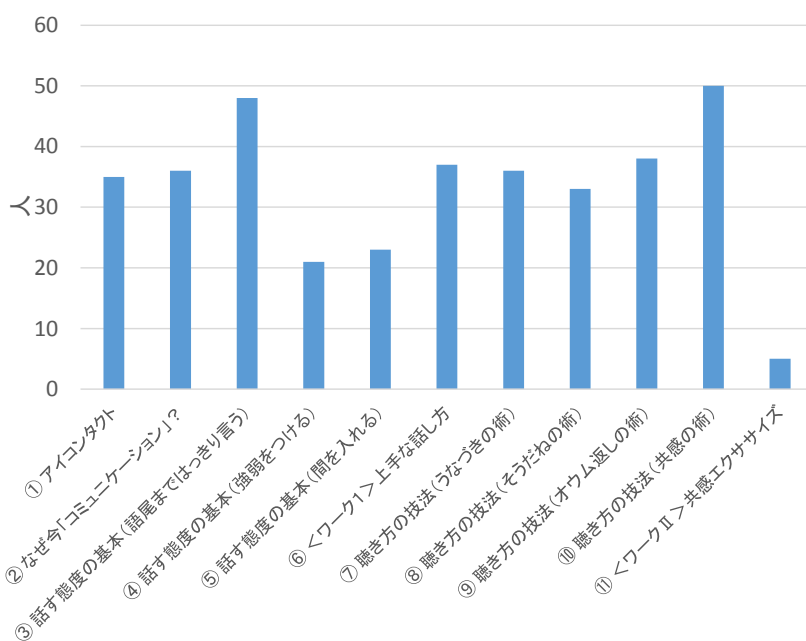
問1. 今日の講習は自分の役に立っていましたか？



問2. グッドコミュニケーションについて理解できましたか？



問3. あなたが特に興味を持った項目はなんですか？(複数選択可)



2. 相談室活動報告

2-1 構成的グループエンカウンターについて

室長 矢 口 淳 一

平成 29 年度の構成的グループエンカウンターは、4 月 26 日（水）の放課後、第二体育館で 1 年生全クラスを対象に実施した。これは、集団学習体験を通じて、リレーションづくりと自己発見による行動の変容と人間的な自己成長を狙ったものである。

全体の流れは次の通りである。

《進め方》

0. 集合

1. 始めのあいさつ

2. 目的と実施の注意点の説明

3. エクササイズ

（後述の「エクササイズの流れ」参照）

4. 学年全体シェアリング

（各クラス、担任と学生 2 名に感想）

5. 終わりのあいさつ

6. アンケート記入 解散

《エクササイズの流れ》

① フリーウォーク（アイスブレイキングとして）（3 分間）（学生同士の関係を構築する）

② アウチでよろしく（3 分間）

【ねらい】・新しい集団での友達づくりを促進する。

・人さし指と人さし指のスキンシップを通じて親和的な出会いをつくる。

③ ジャンケン列車（8 分間）

【ねらい】・全員で動くことで、クラスの一体感を強める。

④ バースデーチェーン（7 分間）

【ねらい】・非言語コミュニケーションによりコミュニケーションを図る。

⑤ 質問じゃんけん（3 分間）

【ねらい】・友達の話聞き、自分のことを話すことで、友達同士が肯定的に認めあう雰囲気づくりをし交流を促進する

⑥ 共通点探し（8 分間）

【ねらい】・二者関係から四者関係へと関係性を広げる。

⑦ 「こんなクラスにしたい」「居心地のいい教室とは」（10 分間）

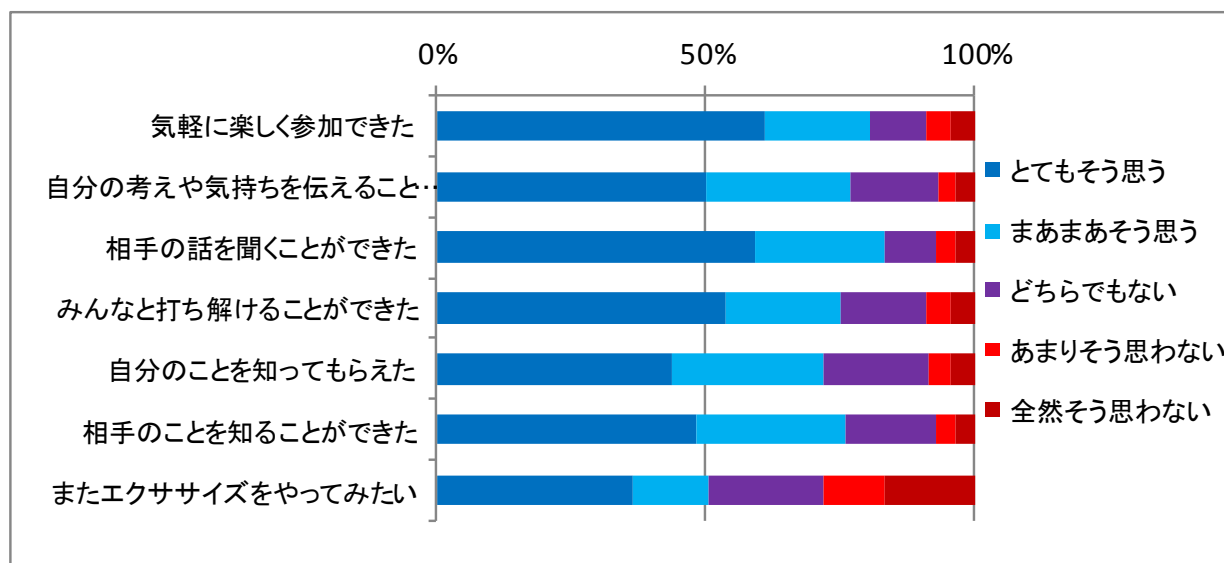
【ねらい】・クラスの帰属意識を持たせ、共通の認識を持たせる。

ふりかえりのアンケートの結果を次ページの図に示した。「またエクササイズをやってみよう」が 50%、「自分のことを知ってもらえた」が 70%程度で少し低いが、そのほかはほぼ 80% 以上で肯定的であった。

また、「こんなクラスにしたい」「居心地のいい教室とは」でグループ毎にまとめた結果を次ページの表に示した。『明るく元気のよい』、『笑顔や笑いのたえない』クラスを挙げるグループが多かった。是非実現してほしいものである。

今後も構成的グループエンカウターの実施や効果を上げるための検討が引き続き必要である。担任を始め関係各位の協力のもと実施できたことを感謝申し上げたい。

◎ アンケート結果



◎ 「こんなクラスにしたい」「居心地のいい教室とは」のまとめ

※ () 内の数字はグループ数

・明るく元気がよい (10) ・笑顔や笑いがたえない (8) ・楽しい (7) ・皆の仲がよい (6) ・留年生がでない、全員が進級できる (5) ・あいさつが言える (5) ・きれいな教室 (5) ・いじめがない (4) ・共に助け合う (4) ・行事で(積極的に参加、協力、団結)できる (3) ・勉強を教え合えるクラス (3) ・メリハリをつけられるクラス (3) ・みんな気軽に話せる (2) ・清潔感のあるクラス (2) ・ケンカの無いクラス (2) ・思いやりのあるクラス (2)

2-2 「話してみよう！1 分間」について

室長 矢 口 淳 一

平成 29 年度の「話してみよう！1 分間」は、全 1 年生を対象に夏学期と冬学期に 1 回ずつ、7 月と 12 月に実施した。学生に相談室について知ってもらうことにより、学生が相談しやすい環境づくりを目指して実施している。事前に配布したアンケート用紙に、相談時の自分の状況等をテーマにして作文、願い事、学校満足度スケーリング等を各自記入してもらい、指定された時間に相談員が数分間程度学生が持参したプリントをもとに学生の話に耳を傾けた。相談員は無理に聞き出そうとせず、「傾聴・受容・共感的態度で接する」ことを心掛けている。2 回の実施概要を以下に示した。

◎ 実施概要

【1 回目】

① 目的

- 1) 学生に、相談室の場所・雰囲気や、相談員

の人柄や担当曜日等を知ってもらうことにより相談室の敷居を下げ、学生が相談しやすくする。

- 2) 学生の相談できる相手の選択肢を広げる。

② 実施日：7 月 6 日（木）～7 月 18 日（火）

③ 対象人数：第 1 学年学生 166 名

【2 回目】

① 目的

- 1) 学生の悩みをすくい上げ、安定した状態で新年度を迎える助力とする。

- 2) 学生の相談できる相手の選択肢を広げる。

② 実施日：12 月 4 日（月）～12 月 19 日（火）

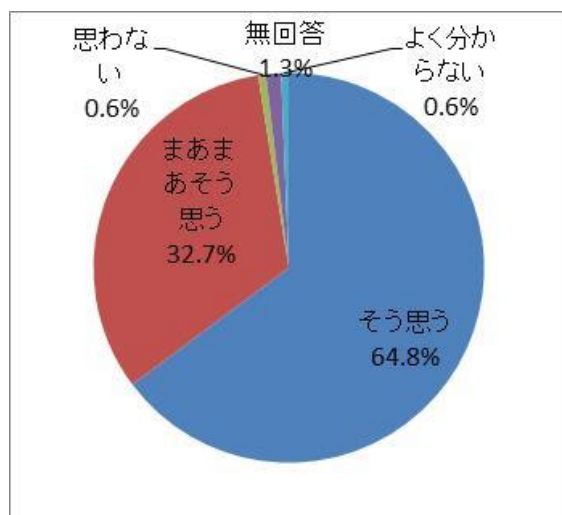
③ 対象人数：第 1 学年学生 166 名

実施後に学生に記入してもらったアンケート結果をまとめて示した。

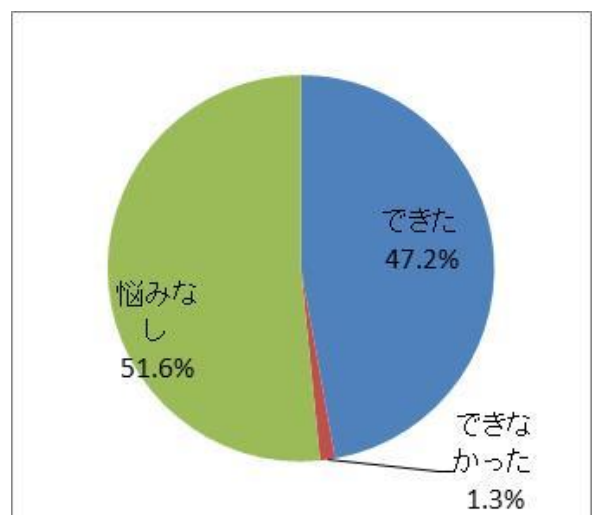
◎ 平成 29 年度アンケート結果

【1 回目】（回収率 95.8% 159 人/166 人）

質問 1 「この企画を実施したことにより、相談しやすくなったと思いますか？」

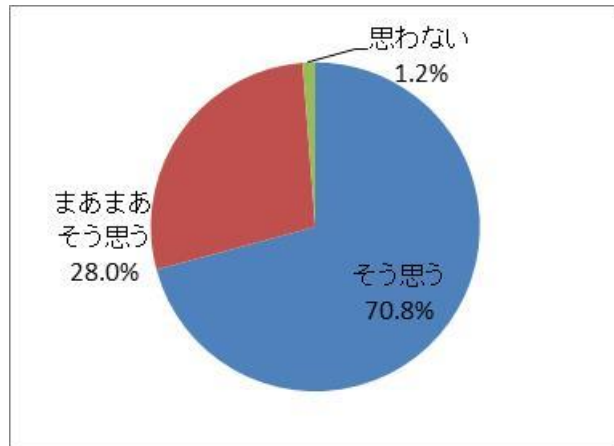


質問 2 「自分の悩みを知らせることができましたか？」

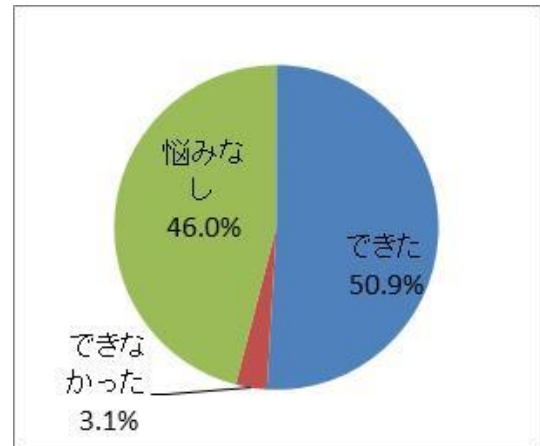


【2回目】(回収率 97.0% 161 人/166 人)

質問1「この企画を実施したことにより、相談しやすくなったと思いますか？」



質問2「自分の悩みを知らせることができましたか？」



実施後のアンケート結果を見ると、質問1では、2回目の方が相談しやすくなった割合が増加した。また悩みが相談できたか聞いた質問2では、相談できた割合が少し増加しているが、相談できなかった学生の割合も若干増加していることに注意が必要だ。

3. 研修等参加報告

【平成 29 年度 FD 報告資料】

3-1 「障害学生支援の事例紹介」(発達障害学生支援の例)

副室長 山 本 歩

2018.3.27

障害学生支援の事例紹介

発達障害学生支援の例

マテリアル・バイオ工学コース 山本歩

障害者差別解消法の制定 (2016年4月1日施行)

行政機関等は、その事務又は事業を行うにあたり、**障害を理由として障害者でない者と不当な差別的取扱い**をすることにより、障害者の**権利利益を侵害してはならない**。

行政機関等は、その事務又は事業を行うにあたり、障害者から現に**社会的障壁**の除去を必要としている旨の**意思表示**があった場合において、その実施に伴う**負担が過重でないときは**、障害者の権利利益を侵害することとならないよう、当該障害者の性別、年齢及び障害の状態に応じて、社会的障壁の除去の実施について**必要かつ合理的な配慮をしなければならない**。

対 象	不当な差別的取扱い	障害者への合理的配慮
国の行政機関・地方公共団体等	禁止 不当な差別的取扱いが禁止されます。	法的義務 障害者に対し、合理的配慮を行わなければならない。
民間事業者(※) ※民間事業者には、個人事業者、NPO等の非営利事業者も含まれます。	禁止 不当な差別的取扱いが禁止されます。	努力義務 障害者に対し、合理的配慮を行うよう努めなければならない。

国立大学・国立高専：法的義務
私立大学：努力義務

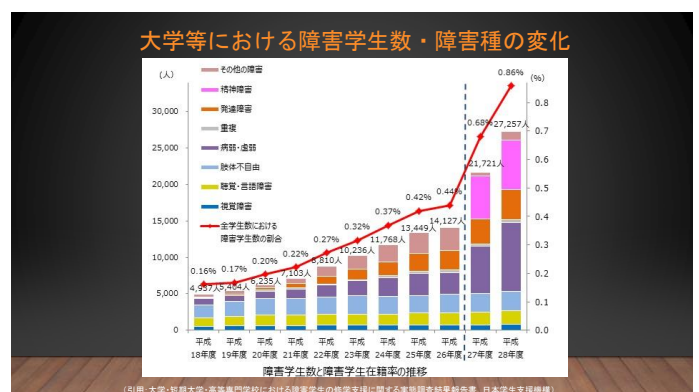
合理的配慮の考え方 (政府の基本方針)

◎差別的取扱いの例

- 合理的配慮を受けたことを理由に**評価に差**をつけること
- 障害があることを理由に、入学、受講、研修への**参加等を拒否**すること

◎合理的配慮の例

- 必要に応じて、施設利用の**場所や時間を調整**すること
- 授業、研修、実習等で使用する**資料を事前に提供**すること
- 必要に応じて、**コミュニケーション上の配慮**を行うこと
- 公平性の観点から**柔軟な評価方法**を検討すること



合理的配慮の条件

◇本人にとって必要か？
周囲の人々と同等に効果的な参加ができていない状況があると言えるか？

◇合理的(妥当)な内容か？
周囲とのギャップを埋めるのに適切な手段が要求されているか？

◇授業目標の本質的な変更を求める内容ではないか？
授業の目的・内容そのものを大きく変更したり、成績評価基準を下げることにしないか？

◇学校に過重な負担を求めるものではないか？
・教育・研究その他大学が行う活動への影響の程度(その目的・内容・機能を損なうか否か)
・実現可能性の程度(物理的・技術的制約及び人的・体制上の制約)
・費用・負担の程度
・学校の規模及び財政・財務状況

支援事例

プレゼンテーションとディスカッション重視の演習授業における配慮

【支援要望内容】

- ・集団の中ではとても緊張するので、プレゼンテーションを免除してほしい。
- ・ディスカッションで発言しなくても、減点の対象としないようにしてほしい。

【対応：その授業の本質は何か？】

- ・プレゼンテーションやディスカッションが本質ではなく、「**知識を理解すること**」が本質の場合
→ レポート提出で代替する。
- ・「**プレゼンテーション・ディスカッション力の向上**」が本質の場合
→ 原稿を作成させ、自動音声ソフトで発表させる

演習形式の授業での合理的配慮の例

- ・プレゼンテーションとディスカッションの評価をレポートで代替
- ・発表のみ教員と1対1で実施
- ・発表を録画して、それを受講者が見る
- ・PC、タブレットの読み上げ機能で発表
- ・オンラインでのディスカッションの活用（メッセージ・チャット機能）
- ・ディスカッションルールの明確化
- ・発言の筆記、図示などによる視覚的補助

事例

実験の授業における配慮

【状況】

- ・一斉の支持が通りにくく、正しく手順を理解しているかどうか怪しい
- ・極端な不器用さがあり、一部の作業は危険を伴い、事故のリスクがある。

【対応】

- ・実験手順、機器操作方法、確認方法の徹底
- ・実験場面でのルールの明確化
- ・特定の作業を免除（実験補助者・TAの配置やサポート）
- ・グループメンバーによる補助
→ ただし、他の受講生に支援の責任を負わせる形にはしない

事例

体調が不安定で欠席がち

【状況】

- ・特に午前中は調子が悪く、欠席が多くなる。
- ・診断書もあり、朝は特に体調が悪いので、配慮してほしいとの文言がある。

【対応】

- ・レポート等の追加課題で補えるかどうか（授業の本質による）。
- ・学外の専門機関でまずは学べる体勢を整えることも必要。
- ・オンライン上での学習で代替可能かどうか。

事例

体調が不安定で欠席がち

【状況】

- ・特に午前中は調子が悪く、欠席が多くなる。
- ・診断書もあり、朝は特に体調が悪いので、配慮してほしいとの文言がある。

【対応】

- ・レポート等の追加課題で補えるかどうか（授業の本質による）。
- ・学外の専門機関でまずは学べる体勢を整えることも必要。
- ・オンライン上での学習で代替可能かどうか。

3-2 第55回 全国学生相談研修会参加報告（本校と他大学の相談室運営の比較）

相談員 井 関 祐 也

第55回 全国学生相談研修会参加報告 —本校と他大学の相談室運営の比較—

産業システム工学科 機械システムデザインコース
井関 祐也

第55回全国学生相談研修会 日程等

主催：日本学生相談学会

後援：文部科学省 独立行政法人日本学生支援機構

日程：2017年12月17日（日）～19日（火）

場所：東京国際フォーラム

参加資格：

大学・短期大学・高等専門学校において学生相談・学生支援
に携わる教職員及び日本学生相談学会員



前年度の集計では

事務職員：5割、教員：2割、その他（カウンセラー、看護師）：2割

学会の趣旨

高等教育機関の学生相談室、カウンセリングセンター、保健管理センター等に所属するカウンセラー及び教職員など、学生の支援活動を行う実践者・研究者の学会。学生相談活動の理論や方法は、学生の気質の変化や時代の要請に従って刻々と変わっております。

日本学生相談学会は、このような変化に対応すべく、新しい知見の導入や工夫、実践の成果の伝達など種々の取り組みを組織的に行う目的で1987年に設立されました。

※日本学生相談学会HP抜粋

スケジュール

	9:30	10:30	11:00	12:30	14:00	17:30
17日(日)	受付	開会式	特別講演	昼休み	分科会	
18日(月)	9:30	11:00	12:30	16:30	17:15	
	小講義 I	昼休み	分科会		情報交換会	
19日(火)	9:30	11:00	11:15	12:00	13:00	15:00
	小講義 II	交流会	昼休み	分科会		

小講義・・・特定のテーマについて集中的に学ぶ（14テーマ）

→「カウンセリング入門」と「LGBT関連」を選択

分科会・・・少人数(20～40名)で実習及び交流を行う。（21教室）

→「学生相談の基礎と実践」（初心者向け）

大学における学生生活の充実方策について 『廣中レポート』(2000年6月答申)

3 今後の大学のあり方―視点の転換 (1)「教員中心の大学」から「学生中心の大学」への視点の転換

(略)これまで、大学の教員の関心は、主として自らの研究に向けられ、学生に対する責任を十分に意識していないということがしばしば指摘されてきたが、今後は、総体として教員の研究に重点を置く「教員中心の大学」から、多様な学生に対するきめ細やかな教育・指導に重点を置く「学生中心の大学」へと視点の転換を図ることが重要である。

国立大学法人法（2003年10月施行）

第二十二条

国立大学法人は、次の業務を行う。

- 一 国立大学を設置し、これを運営すること。
- 二 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談、その他の支援を行うこと。

他大学の学生相談室パンフレット（リーフレット）



本校と他大学の学生相談室の来談率

学生相談として十分に機能していると考えられるのは10%の来談率とされている。

学校名	来談率 (学生相談数÷学生数)×100
八戸高専	約 3.5%
北九州高専（平成20年）	4.5%
近畿大学附属看護専門学校（平成24年）	2.5%
名古屋大学	約10%
全国平均	約4.8%

15年間で
2.5倍

本校の学生相談室の稼働率は全国平均以下であり高いとは言えない

本校と他大学の学生相談室の来談率

名古屋大学 約10000名の学生数 ⇒ 約1000名の来談数（約10%）
名古屋大学 全校で教授・准教授が約1000名
つまり、1教員につき1名の支援すべき学生を抱えている計算

↓ 本校の3.5%の意味を考察すると

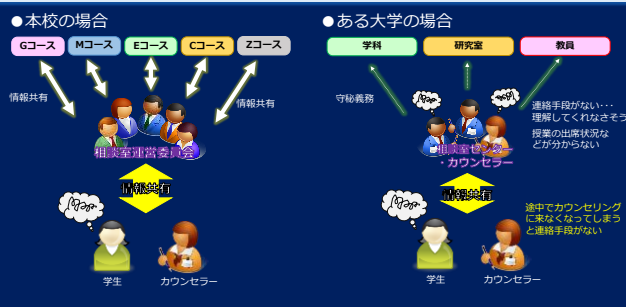
本校 約880名の学生数 ⇒ 約30名の来談数（約3.5%）
全校で教員が約60名
つまり、2教員につき1名の支援すべき学生を抱えている計算
相談室に足を運んだ学生数であるため実際にはもっと大勢いるはず。

学生相談に持ち込まれる相談内容

学業 : 履修方法、学修方法、留年など
 進路 : 再受験、転学部、転科などの進路選択
 対人関係 : サークル、寮、研究室などの小集団での人間関係に伴う心理的問題
 身体健康 : 病気・障害に伴う問題
 精神保健 : 継続的に医療が必要とされる精神障害
 家庭問題 : 家族との関係、家族の病気など
 学生生活 : 住居、経済、アルバイト、交通事故などのトラブル、カルト教団などの勧誘、休学・留年など
 人生観 : 自分自身の生き方、性格など
 恋愛 : 異性との関係、失恋・トラブルなど
 将来 : 就職・進学など卒業後の進路選択

↓
学校生活との関係が薄い相談も持ち込まれている
心理相談に特化しない「よろず相談所」化

本校と他大学の学生相談室運営



本校の学生相談室



校内の奥まった場所。校門から近くはないが、学生の動線にある。

典型的な接待セット

名古屋大学の学生相談室



学生が通いやすいように地下鉄出口のすぐそば。人目につかない場所(敷地内の端等)は学生の足が遠のくのであまりよくない。

カウンセラー



学生

本やぬいぐるみ、間接照明等を配置してリラックスできる空間作りをしている。

ある大学での事例（事務職員からの報告）

1. 話す気がない学生に対し会話を成立させるにはどうしたらよいか

本学では、年に一度部室の点検を行っている。その際、部員に点検の立ち合いをしてもらい、立合者として確認の署名や再点検の指示を受けることになっている。
ある部の立合者のケースだが、部長からとりあえずいてくれと言われたのか、たまたま部屋にいただけなのか分からない学生がいた。私が部屋に入って挨拶したときや、点検中や点検後もずっとスマートフォンをいじっていて、こちらが話しかけても一切無視して目を合わせない状態だった。
点検で合格できなかったので、部屋の改善点や指導を起こした。一切反応が無かったが、こちらの話は聞いていて、部屋の改善は行われるだろうと思ったが、後日再点検を行ったが、改善されていないし、先輩にも状況を報告していなかった。
また、事務室に入ってきて話かけてこず、立っているだけの学生もあり、対応に苦慮している。

- ・嫌々残っていたのであれば、不機嫌だったのではないか。
- ・学生に対して質問する（～と言ってきてよいですよ）
- ・対応に問題がなかったか？
- ・学生は言葉（話の内容）ではなく感情に反応する

ある大学での事例（事務職員からの報告）

2. 同じことを何度も聞いてくる学生に対しての切り返し方

学生がしてきた質問に対して回答したが、直後に同じ質問をしてきたので再度回答した。そのような繰り返しが4度くらい続いたので、一方的に会話を終了してしまった。初めは自分の回答の内容が難しかったのだと思い、2回目以降はほとんどんかみ弁いて説明したつもりだった。学生の理解が追いついていないのか、こちらの説明の仕方が下手なのかの区別がつかなくなってしまった。

3. 書類を読んでこないで質問に来る学生に対しての話し方

質問してくる学生の中で、配布した資料を全く読んでこないでゼロから聞いてくる学生がいる。その場合、意図をくみ取って回答するだけで良いのか、それとも資料を読むことがあることを伝え、その上で質問を聞くのが良いのか判断に困ることがある。

- ・窓口では個人で問題（学生）を抱えない
- ・耳からの情報だけでは理解できない学生もいる
- ・ボンチ絵、フローチャート、カレンダー等の視覚情報を含んだ資料作り（フォントはメイリオがおすすめ）

参加してみて分かったこと・参考になったこと

- ・他大学の相談室の運営形態について知ることが出来た。
 - ・カウンセラーの多くが守秘義務と学生支援の間で苦悩している。
 - ・発達障害の疑いがある学生は増えている。
 - ・最近の学生は白黒（モノクロ）の資料では頭に入らない。
 - ・どこの高専も相談室の運営体制はほとんど同じ。
 - ・高専の知名度はまだまだ低い。
- 「どうしてこの会に来ているんですか？」と複数人に聞かれた

4. 相談室の記録

4-1 年間活動記録

- | | |
|---|--|
| <p>1. 懇話室開放
毎日 16:00～17:00 (学生休業日は除く)</p> <p>2. 相談室会議 (定例) 懇話室
各学期 毎月第1水曜日</p> <p>3. カウンセラー来校日
(火・水・木・金 14:00 (16:00) ～相談室)
第1木曜日: 坂本玲子先生
第2・4水曜日: 笹 博先生
第3・5水曜日: 中西智子先生
第2・4木曜日: 石川善子先生
第1金曜日・第2火曜日: 土屋文彦先生</p> <p>4. 一年生対象 SGE (構成的グループエンカウンター)
4月26日 (水) 14:25～15:55 第2体育館</p> <p>5. こころと体の健康調査 (全学生対象)
第一回 5月中旬
第二回 12月上旬</p> | <p>6. Q-U 検査
6月中旬～下旬 対象: 第1・2・3学年</p> <p>7. 「話してみよう! 1分間」の実施
対象: 1学年生
場所: 懇話室・相談室
月日: ①7月6日 (木) ～7月18日 (水)
②12月4日 (月) ～12月19日 (火)</p> <p>8. ハラスメント防止講演会
日時: 9月6日 (水) 13:00～14:30
場所: 合併教室
講師: 仙台高専 カウンセラー 濱中ミオ
題名: ストップ! ハラスメント!
ーより良いキャンパス環境を目指してー</p> <p>9. 1学年講演会
対象: 1学年生
日時: 12月6日 (水) 14:30～15:30
場所: 合併教室
講師: 仙台高専 カウンセラー 濱中ミオ
題名: 目指そう! グッドコミュニケーションー相互尊重のススメー</p> |
|---|--|

4-2 相談室購入書籍・雑誌

- | | |
|---|---|
| <p>☆ 『こころの科学』【日本評論社】</p> <p>17年5月 193 特別企画＝親の生きづらさ</p> <p>17年7月 [現場編] くすりにたよらない精神
医学</p> <p>17年7月 194 特別企画＝チックとトゥレット
症</p> <p>17年8月 [メンタル系サバイバルシリー
ズ] 私はこうしてサバイバルした</p> | <p>17年8月 公認心理師入門</p> <p>17年9月 195 特別企画＝職場の発達障害</p> <p>17年9月 LGBT のひろば</p> <p>17年11月 196 特別企画＝臨床家のほめる技術</p> <p>17年1月 197 特別企画＝教師の SOSーメンタ
ルヘルスを守る・支える</p> <p>17年3月 198 特別企画＝現場から考える愛着
障害 (仮)</p> |
|---|---|

☆ 『学校教育相談』【ほんの森出版】

17年 4月 特集「新年度、不登校の子へのかかわり基礎・基本／子どもたちの自己開示、教師自身の自己開示」

17年 5月 特集「『特別な配慮が必要な子』をクラスに説明する」／「教育相談のスキルが『主体的・対話的で深い学び』を支える」

17年 6月 特集「保護者からのクレーム、対応の鉄則」／「『チーム学校』のつなぎ役としてコーディネート力を磨く」

17年 7月 特集「友達の批判や文句を言う子／ケース会議・事例検討会を元気になるものに」

《増刊》「解決志向のクラスづくり 完全マニュアル」

17年 8月 特集「授業やワークでの「振り返り」の質を高める／養護教諭の強みを活かした相談活動」

17年 9月 特集「「苦手と感じる子」との関係が変化するとき／担任する子が入院！対応と配慮のポイント」

17年 10月 特集「「子どもの力を借りる」かかわり／見えづらい「グループ内でのトラブル」を見るために」

17年 11月 特集「子どもの「やる気」を引き出す小さな工夫／私の 10 秒・20 秒・3 分カウンセリング」

17年 12月 特集「受験の不安に押しつぶされそうな子／グループワークの安全性を高めるために」

18年 1月 特集「日々の自分を支える、この言葉／アジアの包括的生徒指導から学べること」
《増刊》「PBIS 実践マニュアル&実践集」

17年 2月 特集 「年度末に向けて「いい別れ」をするために／さりげないリフレーミングで子どもをサポート」

17年 3月 特集 「先生だってほめられたい！／座間の事件から、子どもの「死にたい」気持ちを考える」

☆ 笹先生からの推薦図書

・『自己肯定感、持っていますか？』 水島 広子著 大和出版（文京区）ISBN9784804762531

編集後記

ここに、平成 29 年度相談室活動実績報告書をお届けいたします。

相談室の活動は、学生、教職員ともに面談日を基本的に週 2～3 回として継続してきています。火曜日と金曜日に土屋文彦カウンセラー（臨床心理士）、水曜日に笹 博カウンセラー（医師・ささクリニック医院長）、中西智子カウンセラー（臨床心理士）、木曜日に坂本玲子カウンセラー（産業カウンセラー・スクールカウンセラー）、石川善子カウンセラー（臨床心理士）に担当していただきました。

また、名誉教授の平川武彦先生、工藤隆男先生、今野恵喜先生には教職員向け相談室にそれぞれ火曜日と水曜日、木曜日に詰めていただきました。

教職員向け講演会では、仙台高専の濱中ミオカウンセラーに講師を担当していただき、『ストップ！ハラスメント！ーより良いキャンパス環境を目指してー』という題名でハラスメント防止について講演していただきました。また 1 年生対象の講演会でも、濱中カウンセラーに『目指そう！グッドコミュニケーションー相互尊重のススメ』と題して自信を持って楽しくコミュニケーションできる力を高めるにはどうしたらよいか話していただきました。

1 年生対象の構成的グループエンカウンターは、4 月に 4 クラス一緒に体育館で実施し、担任やクラスメートとの交流が行われました。また、「話してみよう！1 分間」は、今年度も 7 月と 12 月に 1 年生を対象に実施しました。相談室の敷居を下げ、学生の相談できる相手の選択肢を広げ、悩みをすくいあげる本校の特色ある取組として定着し、効果がでてきています。

要支援学生を把握するため、今年度も Q-U 検査と「こころと体の健康調査」を行いました。Q-U 検査は 1～3 年生を対象に 6 月に実施し、

「こころと体の健康調査」は全学生を対象に 5 月と 11 月に実施し、相談室につなげるようにしました。

また日本学生支援機構主催の研修会に、室長、副室長が参加し、「障害学生支援の体制整備」、「障害学生支援実務」について、日本学生相談学会主催の研修会には副室長、相談員が参加し、「障害学生支援と学生相談」、「学生相談の基礎と実践」について、そして、国立高専機構主催の研究集会には、校長を始め 5 名が参加し、「いじめ・ハラスメント」、「発達障害学生支援」について、それぞれ学んできています。今年度の東北地区学生相談室連絡協議会は 11 月にテレビ会議で実施し、「障害を持つ学生の増加への対応について」などについて協議しました。

最後に、平成 29 年度の相談室活動で、ご指導、ご支援、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。榎本看護師は、平成 29 年度をもちまして退職されましたが、学生たちの心の支えとなって長年にわたりご支援いただき、心から感謝申し上げます。

〔矢口〕

平成 30 年 10 月

《平成 29 年度相談室》

矢 口 淳 一（室長：環境都市建設デザインコース）
山 本 歩（副室長：マテリアル・バイオ工学コース）
戸田山 みどり（相談員：総合科学教育科）
井 関 祐 也（相談員：機械システムデザインコース）
鎌 田 貴 晴（相談員：電気情報工学コース）
平 川 武 彦（相談員：名誉教授）
工 藤 隆 雄（相談員：名誉教授）
今 野 恵 喜（相談員：名誉教授）
深 田 浩 一（総務課長）
宇 野 裕 之（学生課長）
榎 本 恭 子（インテーカー：看護師）